

令和5年度〔自己評価報告書〕

| | | |
|------|------------|-------|
| 学校番号 | 学校名 | 校長名 |
| 65 | 川崎市立上作延小学校 | 小林 智子 |

| 学校教育目標 | 今年度の重点目標 |
|--|---|
| かしこく・やさしく・たくましい子の育成 ・夢や目標に向かって、自ら考え、挑戦しようとする子 ・自分の思いや考えをのびのびと表現する子 ・自分も人も大切に、共に考え課題解決に向かって行動する子 ・困難なことがあってもあきらめず、粘り強く取り組む子 | ○確かな学力の育成 ○豊かな心とたくましい実践力の育成 ○健康・体力の増進と安全・安心な学校生活作り ○地域に根ざした特色ある学校づくり ○教職員の指導力向上 |

・伝わるように伝えよう 受け止めよう
 ・みんなの力を合わせて 大きな力にしよう

| 評価項目 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 具体的な改善策 | |
|------|---|--|---|---|
| 1 | 確かな学力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年スペースや掲示板を中心に、常に学習の様子や成果が見える化され、学校全体で共有できるようになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自然な形で継続していけるようにする。 | |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・国語科の教育課程において提案をした。また、国語科の校内研究に取り組み、他教科や生活と連携した単元づくりを行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元や教科を越え、学校教育活動全体を見ながら、連携させて単元づくりを行うカリキュラム・マネジメントの力が備わってきた。市制100周年とも関連させ、社会とのつながりを意識できるキャリア教育としても価値ある活動ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントをさらに推進する。教科を関連させるだけでなく、学習を社会とつなげることや生涯にわたるものにしていくこと、その価値について考えられるような教育活動にしていく。 | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想ステップ3を意識し、個別最適な学びと協働的な学びに向けてICT機器の有効活用を努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用が得意な教員を中心に、学年を越えて、教材の開発を行ったり、操作方法を学び合ったりすることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々の必要感に応じた使い方ができるようになっていく。有効活用できた単元例をカリキュラムに残していく。 | |
| 4 | 豊かな心とたくましい実践力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年内交流、異学年交流、外部の方々との交流等、幅広く交流し、多様な人やもの、事との出会いを積極的に設け、実体験を通した学びを推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人やもの、事との出会いを通じて、見方・考え方を広げることができた。自分の役割や社会とのつながりを感じられる取組ができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域をはじめ外部とのつながりを大切にしていける。また新しく開拓に努める。実物、本物との出会い、体験活動を重視した活動を行っていく。 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童、登校渋りの児童、大人数が苦手な児童などに対して、担任や児童支援コーディネーターが中心になって関わりを深めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校できる日や時間が増えた、個別学習につながったケース、また、自分のペースで別室を利用しながら調整できるケースがあった。改善が見られないケースもある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校につながったケースについては、学習の状況が課題となっている。個々の状況にあった支援の在り方について探る。 | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年行事においては、児童の思いや発想を大切に、児童主体の活動を推進した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをもとに児童の思いを生かした内容や形式、児童自身の言葉を大切に、学年ごとに学習発表会を行った。児童主体の探究・表現活動となった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことでのような力が身に付いてきたのかを価値づけ、児童自身が捉えられるようにする。自主的な行動の楽しさや豊かさを味わえるようにしていく。 | |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・全校朝会を中心に、学校全体で、聴くこと、話すことの指導を行い、相手意識や目的意識を育てられるように努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・聴くとはどういう態度で、何を大切にするのか、言うや伝えるの違いは何か、など、具体的な場面を通して全体で指導をすることができた。「聴く」「伝える」意識と力が身に付いてきた。教員にとっても、指導の在り方を共有することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定の場面だけでなく、常に、「聴く」「話す・伝える」を大切に指導する。学習や人間関係づくりにおいても価値が感じられるようにする。 | |
| 8 | 健全な心身の育成と安全安心な学校生活づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・登校指導で挨拶や時間、約束などを意識できるよう声かけをした。きらきらタイムの実施、体力向上集会等を行った。養護教諭、栄養教諭による保健指導、食育を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校時間が安定し、用務員をはじめ職員の協力もあり、その間の安全管理もしっかりできた。児童も挨拶の大切さについて認識し、全校児童による挨拶運動を行うことができた。 ・学校安全委員会を開催し、保護者、学校、地域、学校医と児童の健康について情報を共有することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校内での怪我について、大きなけがや事故につながるものがなかった。児童、職員とも、より意識していくこと、正しい知識を持つことが必要である。 |
| 9 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や防犯訓練について、より実践的な内容となるよう改善した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・火災報知器が作動した際には、放送が使えないことなどが分かり、避難訓練の際の伝達方法について再考した。また、非常扉を開けての訓練も行った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・より実践的な内容となるよう、改善していく。安全マニュアルの見直しを行う。 | |
| 10 | 地域に根ざした特色ある学校づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・文書のDX化を行った。毎月の便りを学校・学年だよりとし、HPにアップすると同時に学年のページの更新を行うことにした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年だよりとすることで、担任の負担がかなり軽減され、HPの学年ページを充実することができた。 ・ペーパーレスにすることで経費削減、印刷配付の業務削減、保護者へ確実に伝えられるなどの効果があった。HPの容量の問題で、以前のものを残せない不便が残った。 ・学校からの文書については、メール配信で知らせ、リンクからすぐに読めるようにしたが、学校側が伝えたい情報が十分に伝わっていない(読んでいない)面もあった。また、返信が必要なものは回収率が下がっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・理解と協力を得られるよう広報する。より扱いやすい工夫をする。 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の再開、開発に努めた。市制100周年に向けての活動と関連させ、全学年が教育課程の中に組み込み学習を展開することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さや魅力について調べ、多様な人や物、事とふれあい、考えたことを発信する、行動する学習を展開することができた。新たな可能性も見ることができた。学校の教育活動の意義や目的を理解していただくことができ、地域からもアイデアや提案をいただき、学習を広げることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・関わった一部の人々だけでなく、さらに関わりを広げていく。発信からもう一歩、行動、実践を深めていきたい。 | |
| 12 | 教職員の指導力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校における課題をもとに、計画的に児童理解・支援、授業力向上、等について研修を行った。また、日頃の様子や行事などにおいて、時期的なことや活動内容を考慮し、研修や注意喚起、考える機会などをもつようにした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・経験の少ない教職員、業種の異なる職員、また教員免許をもっていない日本語指導の職員など、様々な職員がいるので、現代の教育の置かれている状況や、大切にすべき点等について共有できるよう努めた。全体で共通認識をもって指導や支援に当たることができた。理解不足、理解が実践につながらないこともあった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・同じ研修をしても捉え方や理解に差があったり、理解したことで現実が一致しない場合もある。具体場面を捉え、粘り強く指導する。互いに声をかけ合える、注意し合えるような環境を整える努力をする。 |
| 11 | <ul style="list-style-type: none"> ・事務作業日の設定、休憩時間を確保する会議時間の設定、業務の精選を行い、本来の業務に専念できるよう努めた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりを学校だよりとセットにしたこと、意見の集約をGIGA端末の共同作業で行うこと、等で業務の効率を上げることができた。時間を意識した会議の設定、進行により、時間の有効利用の意識が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・行事の在り方、進め方、内容などの更なる精選を行う。削減するものを見極めつつ、授業その他の質を維持、向上できるように職員で共通理解する。 | |

| 学校関係者の評価 | 学校運営のまとめ |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童の主体的な姿、児童が創り上げる学習活動や行事、そこに向かう姿等について、目的意識や相手意識が明確であることに評価を得た。 ・交流活動が盛んになり、他学年や外部の方々と連携して学校教育活動が行われていること、地域の魅力について児童が発信したことなどに関心が高かった。学習が地域や社会とつながる「キャリア教育」について理解を得られた。 ・放課後の校庭開放について、わくわくとの連携、交流について要望があった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な見方や考え方、立場の保護者や地域の方々の理解を得ながら学校教育活動を推進していくことを意識してきた。学校説明会や報告会、行事、たより、学校教育推進会議等で説明の機会を大切にしてきた。今後も連携して学校運営を行っていく。 ・学校が中心に担うこと、家庭や地域が中心に担うことの区別が難しく、放課後の生活、家庭生活の問題に関して学校が関わらざるを得ないことがあった。理解を進めると共によりよい連携について考えていく。 ・教職員の指導力・支援力・児童理解力の向上について課題が残る。 |